

hp200LX修理：突然のリブート。原因は電池電極の半田不良による接触不良

Sudden restart by battery feeder clip poor solder.

English

使用中に再起動（リブート）が起こることがあります。

この例の多くは電池電極クリップ部の外れです。

前回、[クリップ部の腐食修理](#)を説明しました。

今回は、全く同様の症状、原因ですが、腐食は一切無かった事例です。



[底蓋を外す](#)

今回は、底蓋を開き（外し）た時点で、すぐに原因がわかりました。

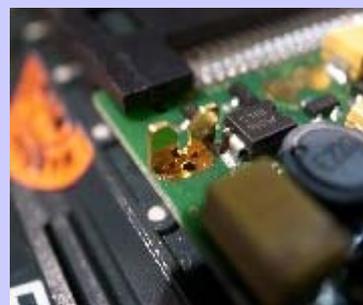
左の写真を一見するだけで原因は明確です。
（クリックで拡大させて確認してください。）



[クリップスプリングが外れてきた](#)

これが答えです。

電池からの給電スプリングの端に、スプリングクリップ（電極把持部）が付着している。



[基板側には、クリップが外れた穴が残る](#)



[基板上クリップ部の反対側（裏面）](#)



[+側電極部](#)

クリップが、いくらしっかり挟んでいても、根元が外れては電源を伝えられません。
すぐに接触不良となって再起動してしまいます。

基板の反対側（裏面）を見ると、非常に綺麗です。

この例では、最初の半田付けが甘かった（表面が十分に合金化していなかった。）ものと考えられます。

この部分の半田付けは、単なる導電だけではなく、機械的な固着の機能をも要求される部分であるため、特に十分な半田付けが要求されます。

十分（満足）な半田付けには、最適半田組成、前処理、熱処理、時間、量、後処理など複数の最適要素が満たされる必要があります。

2012.04.14

修理改造お申し込み

All Rights Reserved, Copyright (c) Yazawa Kiyoshi 2012

閉じる

メール

フォーム